

第5章

政党の終焉

——南アフリカ「国民党／新国民党」解散の政治学——

遠藤 貢

要約：

本報告では、なぜ国民党が南アフリカにおける初の全人種参加の選挙から約10年の時間を経た段階で南アの政治アリーナから消滅したのか(あるいはそうした選択をした、さらには、そうせざるを得なかったのか)、という問いを立てる。その際、政治動員(支持)対象と戦略、あるいは政党を取り巻く制度の変化という文脈に着目する先行研究を整理・参考にし、新生南アフリカという時空間で構築されてきた制度を確認しながら、そこにおける国民党の対応の様式の検討を行う。そして、暫定的な結論として、新生南アフリカという新たな大状況における政党としてのアイデンティティの危機とその確立の試みの中で繰り返された「結果的な失敗」の連鎖ということを指摘する。

キーワード：

新生南アフリカ 政党解散 党籍変更 比例代表制

第1節 問題設定と先行研究

1. 「国民党／新国民党」解散という問題

政党を近代社会におけるひとつの組織としてその盛衰を語ることは枚挙に暇がない。本報告において取り上げる南アフリカ共和国の国民党(National Party)は、1994年の全人種参加の政権議会選挙からちょうど10年を経た2004年8月に開かれた党の連邦評議会(Federal Council)においてANCへの吸収

合併を決定し（事実上解散が決まり）、最終的には 2005 年 4 月の連邦評議会において解散を正式に決定した（なお、後で取り上げるように 1997 年には、政党のイメージ一新を目的として党名を新国民党（New National Party）に変更しているため解散時の正式な政党名は新国民党である）。なお、国民党／新国民党については図 1 に設立以降の基本的な系譜をまとめてある。

国民党が、第二次世界大戦後の世界において異色の政党であったことに疑いの余地はない。それは 1948 年に南アフリカの政権の座について以降、悪名高いアパルトヘイトという公然と人種隔離を実施するための諸法からなる政体を構築したことで知られる政党であるからである。アパルトヘイトの目的は、アフリカーナーのアイデンティティを維持すること、白人の政治的な優越を確保し、この優越に由来する経済的特権を守ること、英国系白人と同等の社会経済的地位にまでアフリカーナーの地位を高めること、の三点とされている。その意味で国民党は基本的にはアフリカーナーと強い結びつきをもつ政党という背景を有していた。

国民党が事実上の解散を決めた 2004 年は 1994 年の選挙から数えて 3 回目の国政選挙が実施された年である。この選挙での結果を受けて国民党が解散を決定したわけである。したがって、2004 年選挙は国民党に引導を渡すという点においてきわめて特徴的な結果をもたらしたと評価することも可能であるし、当時の南アのメディアにおいてもそうした論調が広く見られた。無論、以下で検討するように、その決定に向かう予兆は 1994 年以降の政治過程の中に現れていたわけであるが、この過程は新生南アフリカという新たな文脈における国民党の存在意義を強く問う性格のものでもあった。

そこで、本報告では、なぜ国民党が南アフリカにおける初の全人種参加の選挙から約 10 年の時間を経た段階で南アの政治アリーナから消滅したのか（あるいはそうした選択をした、さらには、そうせざるを得なかったのか）、ということを検討しておきたい。その要因は現実には複合的である。この事実、あるいは決定を、一方では、アパルトヘイト体制の構築者として、南アにおいてすでにその歴史的使命を終えたと言う形で南アの政治史の中で解釈

することも可能であろう。他方、政治動員（支持）対象と戦略、あるいは政党を取り巻く制度の変化という文脈に即して考えることも可能であろう。この中間報告では、ひとまず後者に主に着目する先行研究を整理・参考にし、新生南アフリカという時空間で構築されてきた制度を確認しながら、そこにおける国民党の対応の様式を検討するという、比較的短期的な視座にたった分析を行う作業をしておきたい。

2. 先行研究

歴史的に見れば、アパルトヘイト期、さらにはアパルトヘイトから（南アにおける民主化）の移行期における中心的な政党であった国民党に関する研究はさまざまに展開されてきた。南アフリカにおける政治の焦点のひとつが国民党政治の分析であったとも言える。こうした中で、国民党政治を体系的に総括した研究が、長くアフリカーナーの政治経済体制の観点から南ア政治研究に携わってきたダン・オメーラによって著されている（O'Meara [1996]）。そのほかに、必ずしも厳密な学術研究とはいえない恨みは残るものの、ジャーナリストのファンデル・ウェスーイゼンの近著も、包括的かつ詳細な検証とインタビューに基づいて国民党の盛衰を議論している（Van der Westhuizen [2007]）。国民党の盛衰の問題は国民党とアフリカーナーの関係の変容という点からも検討可能なテーマである。その意味では、ヒリオメによる大著（Giliomee [2003]）や、アフリカーナーに焦点を当てた近年の論考（Marx [2005] ; Davis [2007]）もまた、国民党の問題を検討する上で参照すべきものとして位置づけられよう。

また、本報告の関心に近い問題意識、分析手法に基づく形で1994年選挙と1999年選挙を踏まえた形で、特に南アフリカにおける政治制度と政治動員の両面から体系的な研究を行った成果が、MITに提出されたピオンボの博士論

文である (Piombo [2003])¹。同様に南アフリカ政治研究の碩学であるロッジも、特に 1999 年の選挙に焦点を当てた検討を行っている (Lodge [2001, 2002])。ただし、これらの研究は 1999 年以降の政治制度の変化や政治動員の変化までは扱うことができていない。その意味では本報告の問題関心を時期的に網羅するものとはなっていない。

1999 年選挙以降 2004 年の選挙にいたる政治過程に目を向けた研究は、近年発刊された論文集やいくつかのジャーナル掲載の論文でなされている段階である。特に新生南アフリカにおける政党政治を多角的に分析した論文集は、本報告の問題を考える上では重要な先行研究として位置づけられるものである (Piombo and Nijzink eds. [2005])。政治制度の変化に着目するものとしてはブーイセンによる「党籍変更」制度の導入にかかわる非常に興味深い研究がある (Booyesen [2006])。この時期を含む新国民党の動向については、上記論文集に収められた、シュルツ・ヘルゼンバーグの論文が分析を加えている (Schulz-Herzenberg [2005])。また、政治動員の変化については、ガルシア・リベロが近年の動向について計量分析を用いて分析している (Garcia-Rivero [2006])。

本報告では、上記の先行研究を主に参照しながら、ひとまず制度設計や変更に着目した形で、新生南アフリカにおいて国民党／新国民党が最終的に 2005 年に解散に至る道程を再構成しておくことにしたい。

第 2 節 新生南アフリカの政治制度におけるいくつかの特徴

1. 選挙制度²

南アフリカの政治は、基本的に三層から構成されている。国 (national) レ

¹ なお、Piombo [2005] はこの博士論文のエッセンスをまとめた論文である。

² 選挙制度の概要は、Faure and Lane eds. [1996: Chapter 6] を参照。

ベル、州 (provincial) レベル、地方 (municipal) レベルである。新生南アフリカにおける選挙制度は、国政レベルと州レベルにおいては、これまでのアフリカではやや例外的な拘束名簿式比例代表制が採用されている。政党は、国レベルのリストと州レベルのリストの 2 つを期日までに独立選挙委員会 (Independent Electoral Commission: IEC) に提出する。国会の議席は 400 であり、そのうちの 200 議席が国レベルのリスト、言い換えると全国を一選挙区とみなした形で行われる国レベルのリストから割り当てられ、残りの 200 議席が 9 つの州をそれぞれ一選挙区と考えた場合の州レベルのリストに割り当てられる。

上記の選挙を投票する側からみると、用いる投票用紙は 2 枚で、1 枚は同日に行われる州議会選挙のために用いられ、残り 1 枚の投票が国レベルと州レベルでそれぞれにカウントされる形になる (表 1 に示されている配分議席は、二つのレベルで配分された議席数の合計になっている)³。議席を配分する際に用いられる方式は、イタリアで用いられているドループ式 (Droop Quota System)⁴である。州議会選挙における議席配分においても同じ方式が採用されている。

また、南アの地方議会選挙に関しては、比例代表制と小選挙区制の併用される方式でそれぞれにおいて半数を選出する形になっており、選挙区に欠員が出た際に補欠選挙が実施される。

2. 党籍変更にかかわる制度

³ 一般的には、国政レベルと州レベルで異なった政党選択を行うことが可能になることから、小政党にとって、ある程度は恩恵があるとされている (Piambo [2003: 41])。

⁴ ドループ式は、有効投票総数を定数に 1 を加えた数で割り、これを基数とした上で、各政党の得票数を基数で割り、整数分だけを配分する方式である。残りの議席は剰余が大きい順に議席を割り振る形になる。有効投票数を定数で割る方式をヘアニーマイヤー式、有効投票数を定数に 2 を加えた方式をインペリアル式と呼んでいる (Lodge [2001: 215-6])。

1996年に制憲議会で制定された憲法において、「党籍変更禁止」条項（anti-defection clause）が盛り込まれた（第47条3項（a））。これは、南アの比例代表という選挙制度が実現しようとしている代表の原理と連動するもので、実質的に党籍を変更する場合には国会における議席を失うことを規定したものである。交渉過程において、国民党と民主党はこの条項の導入に反対したが、アフリカ民族会議（African National Congress: ANC）は、この条項には強い党議拘束をかけられるという含みがあることから、党の中央からの規制強化につながるものとして歓迎していたとされる（Piombo [2003: 42]）。

しかし、後に述べるように、南アフリカの三層の行政構成において、州の下位に位置づけられる地方レベルでの選挙にかかわる制度変更⁵に伴う政党間の関係の複雑化に伴う駆け引きが行われ、2002年1月の国会（司法・地方政府委員会）において党籍変更のための憲法改正法案が提出の後、同年6月に採択された。これによって、5年に1度の総選挙の間の時期に2回の「党籍変更期間」（window periods）を設定することが認められるようになった。なお、党籍変更のためには当該政党の議員の最低1割の支持が必要という条件がつけられている。2002年改正法については、統一民主運動（United Democratic Movement: UDM）とインカタ自由党（Inkatha Freedom Party: IFP）という二つの野党からの差し止め請求に基づく裁判がおこなわれた。これに対して憲法裁判所は、この制度改正の背景にある政治的な動機は問題とせず、憲法で規定している比例原則に照らした観点から、改正法は憲法の原則に抵触するものではないという最終判断を下し、2003年3月20日に改正にかかわる4法すべてが採択された（Booyesen [2006]）⁶。

3. 連邦制度と州全国協議会

⁵ 地方選挙法（Municipal Electoral Act）が新たに制定された。

⁶ ブーイセンは比例代表制度の下における「党籍変更」に関して、選挙期間中における支持の変化に伴う比例状況のゆがみ（disproportionality）の是正という観点から、これまでの議論を参照しながら議論している（Booyesen[2006]）。

1996年憲法の改正において、政党間の関係形成において重要な意味合いを持つ制度改正が行われている。それが、上院に代わって導入された州全国議会（National Council of Provinces: NCOP）である⁷。これは南アフリカにおける州の自律性にもかかわっている。NCOPは9つの各州議会から選出される90名の代表によって構成されており、その代表がそれぞれ1票を有している。そして、州や州の権力にかかわる制度の導入の際には必ずNCOPの承認を得る必要がある。そしてこの90名の代表は、基本的には州議会選挙で投票された票に応じて議席が配分される形になっている⁸。

その意味では、国政レベルにおける野党の影響力を行使できるプラットフォームとしてNCOPは重要な意味を持つものであり、その構成を決定する州政府レベルにおいてANCとの間の連合政権を形成するなどの取り組みが重要性を有する形になる（Piombo [2003: 49]）。

第3節 1994年選挙と1999年選挙と国民党／新国民党の対応

1. 1994年、1999年選挙結果

表1に示したように、国民党は1994年選挙では全体の2割に当たる得票を得て、ANCに次ぐ第二党となり、制憲議会に82議席、さらに移行期の措置という形で置かれた国民統合政府（Government of National Unity: GNU）において副大統領にデクラーク、そのほか6名の閣僚を置く形となった。また、西ケープ州では表2に示したように55%に迫る票を得て、過半数にあたる23

⁷ NCOPはドイツの連邦議会（Bundesrat）をモデルとして創設されている（Piombo [2003: 42]）。

⁸ NCOPの運営に関する詳細については、Calland and Nijzink [2001]を参照のこと。

議席を獲得している。レイノルズらの調査によると、この選挙の際の国民党の支持基盤を構成した人種別の割合は、白人が 49%、カラードが 30%、アフリカ人が 14%、インド系人が 7%であった (Reynolds ed. [1994: 192])。したがって、この段階では与党から第一野党への着実な転換がはかられているように見えていた。

ところが、1996 年に新憲法が採択され、国民党が GNU からの離脱を決定し⁹、さらに 1997 年にデクラークの党首引退と党名変更といった一連の変革を経て行われた 1999 年 6 月の総選挙において、新国民党は「大敗北」といってよい国民の審判を下されることになる。表 1 に示したように獲得した得票の割合は 6.87%にとどまり、1994 年に得た票数の 3 割にも満たない結果となった¹⁰。そのため、民主党 (Democratic Party)、クワズールーナタール州に強い支持基盤を持つ IFP にも獲得票数で及ばず、野党第四党の地位に大幅に後退することになった。このときの人種別の支持基盤であるが、白人が 31%、カラードが 44%、アフリカ人が 18%、インド系人が 7%で、得票数では白人票は 1994 年選挙のときの 5 分の 1 を超える程度、カラードは 4 割、アフリカ人も 4 割、インド系人 3 分の 1 弱であり、1980 年代以降行われた選挙の中にあっても、白人からの得票がわずか 2 割にとどまるという歴史的敗北を喫した形になった (Reynolds ed. [1999: 184-185])。しかも、新国民党が獲得した得票の約半分は西ケープ州からのものであったこともあり、地域政党化するという結果になったほか、それまで単独で政権を維持していた西ケープ州の州議会においても躍進した民主党との連立を組まなければ政権運営ができない状況に追い込まれる形になった (Piombo [2003: 155-156])。この状況は、新国民党がもはや白人、とりわけアフリカーナーの政党という性格を喪失したことを如実に示すものでもあった。

⁹ メイヤー、ボタ (Pik Botha)、カメレー (Sheila Camrer) らにインタビューしたファンデル・ウェスーイゼンは、この GNU からの離脱が国民党の終わりの始まりだったという証言をとっている (Van der Westhuizen [2007: 260])。

¹⁰ 1994 年の獲得票数が 398 万 3690 票であったのに対し、1999 年は 109 万 8215 票であった。

2. 1999年選挙にいたる国民党／新国民党の変革過程

新生南アフリカという新たな文脈にあって、国民党の課題はまさにその存在意義と政党としてのアイデンティティ（言い換えれば支持基盤）をどこに求めればよいかという問題であった。GNU 参加自体、ANC 主導の政権運営の中にあつて実は国民党にとっては支持者の不満を惹起するものであつた（Piombo [2003: 157]）。

そうした中で、国民党としての新たな党のあり方として、1996年2月国民党は特定人種に偏らないキリスト教民主主義政党となることを宣言した。これは ANC の世俗主義に対抗する新たな保守主義の指針を示し、南アの保守層への浸透を図るねらいを持つものであつたが、その内容が曖昧であるといつた指摘を受けるものでもあつた（Schulz-Herzenberg [2005: 166]）。しかも、この変更は民主党の政策と一定の重なりを有する結果となり、支持基盤のうえでも競合していくことになる。

1996年5月に新憲法が採択されたことを機に、国民党は GNU からの離脱を決定し、新生南アフリカにおける野党としてのあり方を新たに模索する段階に入る。当時のデクラークのねらいは、白人が多く居住するハウテン州や西ケープ州にのみ支持基盤を持つ政党から全国に支持基盤を持つ強力な野党にそのあり方を再建することにあつたが、その作業自体は後進に委ねられることになった。そこでの争点は、国民党は一体「誰を」代表する政党であるべきなのかということであつた。この段階で党内には大きく分けて二つの「派閥」が存在していたといつてよい。一方は、翌1997年のデクラーク引退後党首に就任する（当時の）党幹事長（executive director）¹¹ファン・シャルクウ

¹¹ 国民党の組織の在り方については、これまでの歴史研究を含め、おそらく秘密結社のアフリカーナーボンド（Afrikaner Bond）などとの関係があることもあり、実は十分に検討されてこなかったことは、マルクスが指摘するとおりである（Marx [2005]）。新生南アの文脈でもこの組織図を確認できていな

イク (Marthinus van Schalkwyk) と西ケープ州代表のクリエル (Hernus Kriel) であり、支持基盤の約 8 割を占める白人とカラードを中心とした支持獲得を目指すことを主張する保守的なグループである¹²。これに対し、新生南アフリカにおけるアフリカ人にまで支持を広げることを訴えていたのが、国民党の憲法制定を含む交渉実務のトップを務めてきたメイヤー (Roelf Meyer) によって率いられていた改革志向のグループであった。国民党はこの時点で人種にとらわれない政党のあり方を模索していたにもかかわらず、実際に党幹部として登用していたアフリカ人は限られており、事実上「白人、男性、中高年、アフリカーンス語の話者」を中心とした政党という性格を脱しきれていなかった (Piombo [2003: 160])。

しかも、この時期の南アフリカの全体状況を考える上で無視してはならないのが、真実和解委員会 (Truth and Reconciliation Commission: TRC) の動向である。TRC は、国民党支配のもとでのアパルトヘイト下で行われた「人道に対する罪」の精査を通じて国民和解を進める画期的な取り組みであったが、国民党の行った「罪」が暴かれていく過程という意味合いを有してもいた。こうした状況を打開するために、国民党内のメイヤーのグループが提唱したのがこれまでの「悪しき」来歴を有する国民党を解党し、新たな政党の形成を図るという方向であった。この問題は 1997 年 5 月の党の連邦会議 (Federal Congress) における審議の対象となった。各州の代表から構成され、国民党の最高意思決定機関である連邦執行委員会 (Federal Executive) は、最終的にこの時点での解党を回避する決定を行ったが、ここでは先述の保守派の影響力が強く出る結果となった。この決定は制度的な側面からの解釈が可能である。それは、憲法に規定された「党籍変更禁止」条項の制約である。党の解体は「党籍変更」と解釈されることになり、現職の国会、州議会、地方議会

い。

¹² ファン・シャルクウィクが本来的に保守的であるかについては別の見方がある。党内での支持基盤を固めるという目的でそのような立場を標榜したという見方である (Van der Westhuizen [2007: 266])。

の議員の失職（失業）にも直結することが、この決定の際の重要な制約となったというのがピオンボの解釈である（Piombo [2003: 162]）。

この結果を受けて、党内の改革派の中心にいたメイヤーは党を離脱し¹³、これに続き党内の改革派が次々と離党する結果を生んだ。1996年8月にはデクラークも党首を退任し、後任にはファン・シャルクウィクが就任した¹⁴。これにより、当面の国民党の支持動員のねらいは白人とカラードに絞り込まれることになった。さらに1997年には党名に「新（New）」をつけ、新国民党と改め、この段階では党名の変更にとどまった。この変更は、比例代表という選挙制度において重要な意味合いを持つ国民党という政党のイメージに影響を与え、これに伴う国民党支持層の大きな変化を生むことになっていく。

名前を変更したNNPへの支持層の変化は翌1998年の地方議会の補欠選挙の結果に早くも現れ始めた。ハウテン州、西ケープ州というNNPにとって最も硬い地盤とされていた地域で行われた補欠選挙において、NNPは民主党に3連敗を喫した。ここにすでに1999年選挙での大幅な党勢の後退の予兆が現れていたのである（Piombo [2003: 164]）。

第4節 制度変化への対応の政治：2000年以降¹⁵

¹³ メイヤーはこの後ホロミサ（Bantu Holomisa）らとともに新党統一民主運動（United Democratic Movement: UDM）を設立する。

¹⁴ ニックネームが「短パン」（Kortbroek）であり、国民的な人気はかなり低かった。

¹⁵ この時期における南アにおける連合形成と「党籍変更」による政党政治の変容を検討しているブーイセンは、5つの局面に分けて検討を加えている。第1局面は1999年から2001年末にかけての時期で、本文で扱っているDAの形成とNNPの離脱過程である。第2局面は、「党籍変更」にかかわる憲法改正過程の時期である。第3局面は、「党籍変更」の制度変化を受けて生じた2003年半ばから2004年はじめにかけての党籍変更が実際に生じた時期である。第4の局面は2004年の選挙の時期である。そして第5局面は選挙後5ヵ月後の地方レベルでの「党籍変更」と2005年の州・国政レベルの「党籍変更」の時期である（Booyesen [2006]）。

1. 民主党との連合と離反、「党籍変更」の導入と帰結

1999年選挙の結果を受けてとられた最初の手は、西ケープ州における政権を維持するために、1998年の地方選挙で敗北を喫し、さらにこの選挙において躍進を遂げた民主党との連立政権を樹立することであった（Nijzink and Jacobs [2000]）。これを受け、両政党はこの時点において一つの政党に統合する可能性を模索したが、ここにおいて再び「党籍変更禁止」条項の制約を受けることになる。そのため全国レベルと州レベルにおいては、連合を形成し、ANC への対抗的地位を確立し、野党の存在異議を高めることにあつた（Schulz-Herzenberg [2005: 167]）。

2000年に新たな地方選挙法（Municipal Electoral Act）が制定され、ここで地方レベルでの「党籍変更」禁止条項の制約が解消されたことを受け、2000年12月に行われた地方選挙の際に、地方レベルにおける民主党と NNP の組織上の統合が実現し、新党の民主連合（Democratic Alliance: DA）が形成されることになる。新党の全国レベルでの党首には人気の高い民主党のレオン（Tony Leon）が就任し、副党首にファン・シャルクウィクが就任した。しかし、この段階ではあくまでも地方レベルでの組織統合にとどまっており、全国、ならびに州レベルにおいては二つの政党の統合は実現していないという「ねじれ」が存在していた。

しかし、この二つの政党間の蜜月は長続きしなかった。この後 DA と NNP 間に価値観やイデオロギーの違い、さらに汚職問題をめぐる問題が発生して関係が悪化したために、地方レベルにおいて 2001年10月 NNP が DA を離脱する形になった（Lodge [2002: 158]）。ところが、組織としては分離したものの、もともとの NNP の党員が DA に残る選択をしたケースが多数に及んだほか、地方レベルは一時的にせよ統合が実現していたため、この間に DA は NNP の資源を吸収する形での組織作りを行っており、分離した NNP は資金

不足に加え¹⁶、地方レベルの組織作りを初めから行う必要に迫られることになった (Schulz-Herzenberg [2005: 167-168])。こうした事態を受けて、西ケープ州での連合政権も解消された。

DA との統合、連立を解消した NNP は、新たに ANC に接近すると同時に「党籍変更」禁止の変更を実現することにより、党勢の巻き返しを模索し始める¹⁷。既述のように、「党籍変更」を可能とする憲法修正法は 2003 年に成立した。しかし、この改正は国政レベルにおいては表 1 に示したように 2003 年の時点で NNP の議席を大きく後退させる結果をもたらした。そして州レベルにおいても 6 人の党籍変更者を出すことになった (Booyesen [2006: 737])。さらに地方レベルでも 2002 年に計 555 名の党籍変更者を出しているが、ここで NNP と関係がなかった人数は 217 人であった (Booyesen [2006: 740])。制度変更は、NNP の党勢下降を助長する結果を生む形になった。

2. 2004 年選挙の結果とその後

2004 年選挙の結果は、国政レベルに関しては表 1、州レベルに関しては表 2 に示したとおりである。既述のように 2004 年選挙は NNP 解散への方向性を決定付けるものであった。国政レベルでは得票数は約 25 万票にとどまり、大敗した 1999 年選挙と比べても 4 分の 1 で、得票率も 1.65%にとどまった。結果として獲得議席は 7 議席であり、わずか 10 年の間に支持層の 94%を失うこととなった (Schulz-Herzenberg [2005: 178])。州レベルでも、これまで一定の支持を獲得していた西ケープ州においてかろうじて 10%を超えるにとどまり、1994 年、1999 年と比べて極端に支持を失い、NNP 自体が泡沫政党

¹⁶ もともと財界等からの資金提供を受け潤沢な政治資金を有していた NNP は、ここにおける失敗を契機に、資金不足に直面していくことになる。財界の信頼も失うことになり、2004 年選挙を戦う段階では、「借金生活」に転落していた (Schulz-Herzenberg [2005: 178])。

¹⁷ これは、1994 年以降において三度目の協力関係の構築の試みであった (Schulz-Herzenberg [2005: 168])。

となった。

2004年選挙における選挙運動での位置取りをみておこう。アフリカーナーを中心とした白人からの支持減少傾向を受け、中道路線を目指す方向を打ち出すことになる。言い換えると、自らを白人の支持を大幅に伸張させている民主連合よりも革新的な政党という位置取りを主張することを試みる。つまり、民主連合は「従来の民主党に加え、保守系右派を代表する政党である」という（”DP+Right Wing=DA”）スローガンを打ち出し、自らをDAと対抗するより革新性をもった政党というスタンスを打ち出したのである。そして、ANCとの連合のもとでの「共同政府」（cooperative government）の方向を打ち出していた。これらは1999年の選挙での支持傾向、さらにそれ以降の支持基盤の変化を受けての対応という性格のものであった。特にこの選挙戦では、カラード労働者階級への浸透を図ることを狙いとして、その居住地域である西ケープ州内のハノーバー・パーク（Hanover Park）、ミッチェルズ・プレーン（Mitchells Plain）、マネンバーグ（Manrnberg）などで頻繁に集会を開いたほか、中心的な争点として厚生、教育、犯罪、サービス・デリバリーなどを掲げた（Schulz-Herzenberg [2005: 176]）。これ以外にも、アフリカ人への一定の浸透を図るために、居住区における運動を展開はしたが、空中からのポスターやリーフレットの投下といった間接的な形にとどまった。

3. 国民党／新国民党の政治動員（支持基盤）の変容

南アフリカの基本的に人口構成は表3、またアイデンティティは表4に示している。1994年と1999年における選挙の結果の比較で見たように、1999年にはNNPは白人政党というよりも、カラードの支持を中心とした政党という大きな変容を経験していたことは示したとおりである。しかし、2004年の選挙では、そのカラードの支持をも十分に得ることができなくなったことが明らかになったといえる。

とりわけ西ケープ州にその支持が限られる傾向にあったNNPがここでも

支持を減らすことになった背景として、シュルツ・ヘルゼンバーグは以下の三点をあげている。第一に NNP のカラードの支持基盤に食い込む新たな政党の登場、第二に「カラード」という南アにおける人種が政治的には一枚岩ではないこと、第三に 2004 年選挙における、カラードの投票率の低さである (Schulz-Herzenberg [2005: 182])。この点を以下で敷衍しよう。

ANC 政権下においてアフリカ人居住区におけるさまざまなサービス・デリバリーは一定の改善が見られたものの、カラードの特に労働者階級・貧困層は 1994 年以降 10 年にわたり NNP への一定の期待を示しながら、それが十分に実現されてこなかったことから支持を減らした側面もある。白人に関しては DA が支持を獲得する傾向を強めたことにより NNP は白人票を大きく失うことになった¹⁸。2004 年選挙で DA は ANC と NNP が共闘している状況を利用する形で、反 ANC 票を NNP ではなく DA への投票に振り向ける戦略を用いて、NNP の支持基盤を切り崩すことに成功したと見られる (Schulz-Herzenberg [2005: 180])。また、NNP と共闘していた ANC もカラード支持に関して、むしろ NNP の支持層、特にカラードの労働者階級や農村居住者を取り込むことに成功していると考えられている (Schulz-Herzenberg [2005: 181])。さらに、パンアフリカニスト会議 (Pan-Africanist Congress: PAC) の女性政治家であり、西ケープ州での人気の高かったデ・リリー (Patricia de Lille) が、HIV/AIDS など争点にして旗揚げした新党独立民主 (Independent Democrats: ID) も、白人とカラードの女性と青年層に支持を拡大し、これまでの NNP の支持基盤を切り崩す結果となった (Schulz-Herzenberg [2005: 181])。こうした非常に競争的な状況下で、特にカラードの票が政党間に大きく割れる傾向を見せたのも 2004 年選挙の特徴であった¹⁹。

最後の投票率の問題である。2006 年選挙の際の西ケープ州の登録者数に対

¹⁸ アフリカーナーの支持はその大半が DA に流れたが、それ以外には自由戦線プラス (Freedom Front +) やアフリカキリスト教民主党 (African Christian Democratic Party) にも流れた (Schulz-Herzenberg [2005: 182])。

¹⁹ この点については、Schulz-Herzenberg [2005: 181] において具体的な数字が挙げられている。

する投票者数の割合は、73.05%であり、これはほかの8州と比べ最低であった。特にカラードの労働者階級の投票率は特に低かった。ここに含まれるのは、失業、犯罪などの問題に直面する、アフリカンス語を話す青年層のカラードであり、その「疎外感」が無関心に転化する形になったことが指摘されている。これに比べ、ANCを支持するアフリカ人の投票率は高い水準を示した（Schulz-Herzenberg [2005: 179-180]）。こうした形での支持基盤の喪失により、2004年にはカタストロフ的ともいえる敗北を喫することになったのである。

まとめと課題

本報告では、ひとまず制度構築と変更をめぐる政治過程への対応のあり方の中に見え隠れする国民党／新国民党のあり方を既存研究の暫定的な整理の形で示し、この南アフリカにおける歴史的政党が解散するに向かう過程を検討してきた。そこには以下に見られるような理由が浮かび上がってくる。

第一に、新生南アフリカという新たな大状況における政党としてのアイデンティティの危機とその確立の試みの中で繰り返された「結果的な失敗」の連鎖である。アパルトヘイトのもとでは「守るべき利益」とそれに対応する支持基盤は比較的明確であったが、国民党として新たに対応しようとした試みはどれを取っても党勢のダウンサイドスパイラルを加速する結果しか生まなかった。特に制度変革の中で翻弄されるかのようでもあった。「党籍変更」禁止のもとでは、結局大幅な党改革を実現するには至らず、党内の有力な改革勢力が袂を分かち結果を生んだ。また、民主党との連合は結果的に党の組織基盤を弱体化させる結果になったし、ANCとの協力の下での「党籍変更」禁止条項の廃止はむしろ党所属の議員数の大幅な後退という結果を招くことになった。

第二に、とりわけ2006年選挙で鮮明になったように、負の連鎖にとらわれ

た国民党／新国民党の支持基盤を切り崩すような、新たな争点を掲げる新たな政党が次々と登場してきたことである。これによって、国民党／新国民党の存在理由がますます希薄化する結果を生み、国民党／新国民党を一つの泡沫政党へと転化していくことになった。

本報告は、既述のように特に新生南アフリカにおける「制度」変更との兼ね合いの中での国民党／新国民党の解体への過程を検討することに主眼があったがゆえに、上記のようなまとめが得られる形になっている。しかし、残念ながら国民党／新国民党の組織や動員（支持）構造の変容過程を、新生南アフリカの政党政治全体の変化の中に析出するところまでには至っていない。特に新生南アフリカという文脈を、国内の政治経済的な新たな分節化の契機と同時にグローバル政治経済の影響の中に読み直す作業を通じて、特に最終的に NNP にとっての基盤であった西ケープ州について検討することによって、もう一段分析を深められるのではないかという印象を有している。このあたりを次年度に向けた課題としておきたい。

参考文献

〈外国語文献〉

- Booyesen, Susan [2006] “The Will of the Parties versus the Will of the People?: Defections, Elections and Alliances in South Africa,” *Party Politics*, 12 (6) , pp.227-246.
- Breytenbach, Willie [1999] “New National Party,” in Reynolds ed. *Election '99 South Africa*, pp.114-124.
- Calland, Richard [2006] *Anatomy of South Africa: Who Holds the Power?*, Cape Town: Zebra Press.
- Davies, Rebecca [2007] “Rebuilding the Future or Revising the Past? Post-Apartheid Afrikaner Politics,” *Review of African Political Economy*, 112, pp.353-370.
- Calland, R., and Lia Nijzink [2001] “Intergovernmental Relations in the Legislative branch of Government: The NCOP,” in Levy and Tapscott eds.

- Intergovernmental Relations in South Africa*, pp.112-124.
- Faure, Murray, and Jan-Erik Lane eds. [1996] *South Africa: Designing New Political Institutions*, London: Sage.
- Garcia-Rivero, Carlos [2006] "Race, Class and Underlying Trends in Party Support in South Africa," *Party Politics*, 12 (1) , pp.57-75.
- Giliomee, H. [2003] *The Afrikaners: Biography of a People*, Cape Town: Tafelberg.
- Kotze, Hennie [2001] "A Communication Devoutly to be Wished?: The Democratic Alliance and Its Potential Constituences," in Southall ed. *Opposition and Democracy in South Africa*, London: Frank Cass, pp.117-134.
- Levy, Norman, and Chris Tapscott eds. [2001] *Intergovernmental Relations in South Africa: The Challenges of Co-operative Government*, Cape Town: Idasa.
- Lodge, Tom [2001] *Consolidating Democracy: South Africa's Second Popular Election*, Johannesburg: Witwatersrand University Press.
- [2002] *Politics in South Africa: From Mandela to Mbeki*, Cape Town: David Philip.
- Marx, Christoph [2005] "'The Afrikaners': Disposal of History or a New Beginning?," *Politikon* 31 (1) , pp.139-147.
- O'Meara, Dan [1996] *Forty Lost Years: The Apartheid State and the Politics of the National Party, 1948-1994*, Randburg: Ravan Press.
- Nijzink, Lla, and Sean Jacobs [2000] "Provincial Elections and Government Formation in the Western Cape: The Politics of Polarisation," *Politikon*, 27 (1) , pp. 37-49.
- Piombo, Jessica [2003] *Entering One-Party Dominant Democracy in South Africa: Political Institutions, Social Demographics and Party Strategies, 1994-1999*, PhD Dissertation, MIT.
- [2005] "Political Parties, Social Demographics and the Decline of Ethnic Mobilization in South Africa, 1994-99," *Party Politics*, 11 (4) , pp.337-370.
- Piombo, Jessica, and Lia Nijzink eds. [2005] *Electoral Politics in South Africa*, N.Y.: Palgrave Macmillan.
- Reynolds, Andrew [1999] *Electoral Systems and Democratization in Southern Africa*, Oxford: Oxford University Press.
- ed. [1994] *Election '94 South Africa: the campaigns, results and future prospects*, Oxford: James Currey.
- ed. [1999] *Election '99 South Africa: From Mandela to Mbeki*, Oxford: James Currey.
- Schulz-Herzenberg, Collette [2005] "The New National Party: The End of the Road," in Piombo and Nijzink eds., *Electoral Politics in South Africa*, pp.166-186.
- Southall, Roger ed. [2001] *Opposition and Democracy in South Africa*, London: Frank Cass.
- Van der Westhuizen, Christi [2007] *White Power and the Rise and Fall of the National Party*, Cape Town: Zebra Press.

Venter, Albert, and Chris Landsberg eds. [2006] *Government and Politics in the New South Africa, Third Edition*, Pretoria: Van Schaik Publishers.

表1 南アフリカにおける国会議員選挙結果

政党名	1994		1999		2003	2004	
	得票率	議席数	得票率	議席数	党籍変更後	得票率	議席数
アフリカ民族会議 (ANC)	62.65	252	66.35	266	275(+9)	69.68	279
民主党・民主同盟 (DP/DA)	1.73	7	9.56	38	46(+8)	12.37	50
インカタ自由党 (IFP)	10.54	43	8.58	34	31(-3)	6.97	28
統一民主運動 (UDM)	-	-	3.42	14	4(-10)	2.28	9
独立民主 (ID)	-	-	-	-	1(+1)	1.73	7
国民党・新国民党 (NP/NNP)	20.39	82	6.87	28	20(-8)	1.65	7
アフリカキリスト教民主党 (ACDP)	0.45	2	1.43	6	7(+1)	1.6	6
自由戦線 (FF/VF+)	2.17	9	0.80	3	3(0)	0.89	4
統一キリスト民主党 (UCDP)	-	-	0.79	3	3(0)	0.75	3
パンアフリカニスト会議 (PAC)	1.25	5	0.71	3	2(-1)	0.73	3
マイノリティ戦線 (MF)	0.07	0	0.30	1	1(0)	0.35	2
連邦同盟 (FA)	-	-	0.54	2	2(0)	-	-
アフリカーナー統一運動 (AEB)	-	-	0.29	1	0(-1)	-	-
アザニア人民機構 (AZAPO)	-	-	0.17	1	1(0)	0.27	2

(出所) Venter and Landsburg eds. [2006: 208] より筆者作成。

(注) 政党名の原語は以下の通り : ANC = African National Congress; DP / DA = Democratic Party / Democratic Alliance; IFP = Inkatha Freedom Party; UDM = United Democratic Movement; ID = Independent Democrats; NP / NNP = National Party / New National Party; ACDP = African Christian Democratic Party; FF/VF+ = Freedom Front/Vyheidsfront+; UCDP = United Christian Democratic Party; PAC = Pan Africanist Congress; MF = Minority Front; FA = Federal Alliance; AEB = Afrikaner Eenheids Beweging; AZAPO = Azanian People's Organization.

表 2 州議会の議席獲得動向

東ケープ州

政党名	1994		1999		2004	
	議席数	占有率	議席数	占有率	議席数	占有率
ANC	48	85.7	47	74.6	51	81
DP/DA	1	1.8	4	6.3	5	7.9
NP/NNP	6	10.7	2	3.2	0	0
PAC	1	1.8	1	1.6	1	1.6
UDM	0	0	9	14.3	6	9.5
議席数	56	100	63	100	63	100

フリーステート州

政党名	1994		1999		2004	
	議席数	占有率	議席数	占有率	議席数	占有率
ACDP	0	0	0	0	1	3.3
ANC	24	80	25	83.3	25	83.3
DP/DA	0	0	2	6.7	3	10
FF/VF+	2	6.7	1	3.3	1	3.3
NA	0	0	2	6.7	0	0
NP/NNP	4	13.3	0	0	0	0
議席数	30	100	30	100	30	100

ハウテン州

政党名	1994		1999		2004	
	議席数	占有率	議席数	占有率	議席数	占有率
ACDP	1	1.2	1	1.4	1	1.4
ANC	50	58.1	50	68.5	51	69.9
DP/DA	5	5.8	13	17.8	15	20.5
FA	0	0	1	1.4	0	0
FF/VF+	5	5.8	1	1.4	1	1.4
ID	0	0	0	0	1	1.4
IFP	3	3.5	3	4.1	2	2.7
NP/NNP	21	24.4	3	4.1	0	0
PAC	1	1.2	0	0	1	1.4
UDM	0	0	1	1.4	1	1.4
議席数	86	100	73	100	73	100

(表2 続)

クワズルーナター州

政党名	1994		1999		2004	
	議席数	占有率	議席数	占有率	議席数	占有率
ACDP	1	1.2	1	1.3	2	2.5
ANC	26	32.1	32	40	38	47.5
DP/DA	2	2.5	7	8.8	7	8.8
IFP	41	50.6	34	42.5	30	37.5
MF	1	1.2	2	2.5	2	2.5
NP/NNP	9	11.1	3	3.8	0	0
PAC	1	1.2	0	0	0	0
UDM	0	0	1	1.3	1	1.3
議席数	81	100	80	100	80	100

リンポポ州

政党名	1994		1999		2004	
	議席数	占有率	議席数	占有率	議席数	占有率
ACDP	0	0	1	2	1	2
ANC	38	95	44	89.8	45	91.8
DP/DA	0	0	1	2	2	4.1
FF/VF+	1	2.5	0	0	0	0
NP/NNP	1	2.5	1	2	0	0
PAC	0	0	1	2	0	0
UDM	0	0	1	2	1	2
議席数	40	100	49	100	49	100

ムプマランガ州

政党名	1994		1999		2004	
	議席数	占有率	議席数	占有率	議席数	占有率
ANC	25	83.3	26	86.7	27	90
DP/DA	0	0	1	3.3	2	6.7
FF/VF+	0	0	1	3.3	1	3.3
NP/NNP	3	10	1	3.3	0	0
UDM	2	6.7	1	3.3	0	0
議席数	30	100	30	100	30	100

(表2 続)

北ケープ州

政党名	1994		1999		2004	
	議席数	占有率	議席数	占有率	議席数	占有率
ACDP	0	0	0	0	1	3.3
ANC	15	50	20	66.7	21	70
DP/DA	1	3.3	1	3.3	3	10
FF/VF+	2	6.7	1	3.3	1	3.3
ID	0	0	0	0	2	6.7
NP/NNP	12	40	8	26.7	2	6.7
議席数	30	100	30	100	30	100

北西州

政党名	1994		1999		2004	
	議席数	占有率	議席数	占有率	議席数	占有率
ANC	26	86.7	27	81.8	27	81.8
DP/DA	0	0	1	3	2	6.1
FF/VF+	1	3.3	1	3	1	3
NP/NNP	3	10	1	3	0	0
UCDP	0	0	3	9.1	3	9.1
議席数	30	100	33	100	33	100

西ケープ州

政党名	1994		1999		2004	
	議席数	占有率	議席数	占有率	議席数	占有率
ACDP	1	2.4	1	2.4	2	4.8
ANC	14	33.3	18	42.9	19	45.2
DP/DA	3	7.1	5	11.9	12	28.6
FF/VF+	1	2.4	0	0	0	0
ID	0	0	0	0	3	7.1
NP/NNP	23	54.8	17	40.5	5	11.9
UDM	0	0	1	2.4	1	2.4
議席数	42	100	42	100	42	100

(出所) Venter and Landsburg eds. [2006: 130-132] より一部修正して筆者作成。

表3 南アにおける人種ならびにエスニック・グループ

人種	割合 (%)	エスニック・グループ	割合 (%)
アフリカ人	77.42	ズールー	22.87
白人	11.03	コーサ	17.89
カラード	8.95	アフリカーナー	14.45
インド系人	2.60	ペディ	9.19
合計	100	イングリッシュ	8.59
		ツワナ	8.21
		ソト	7.72
		ツォンガ	4.37
		スワジ	2.52
		ヴェンダ	2.18
		ンデベレ	1.46
		その他	0.57
		合計	100

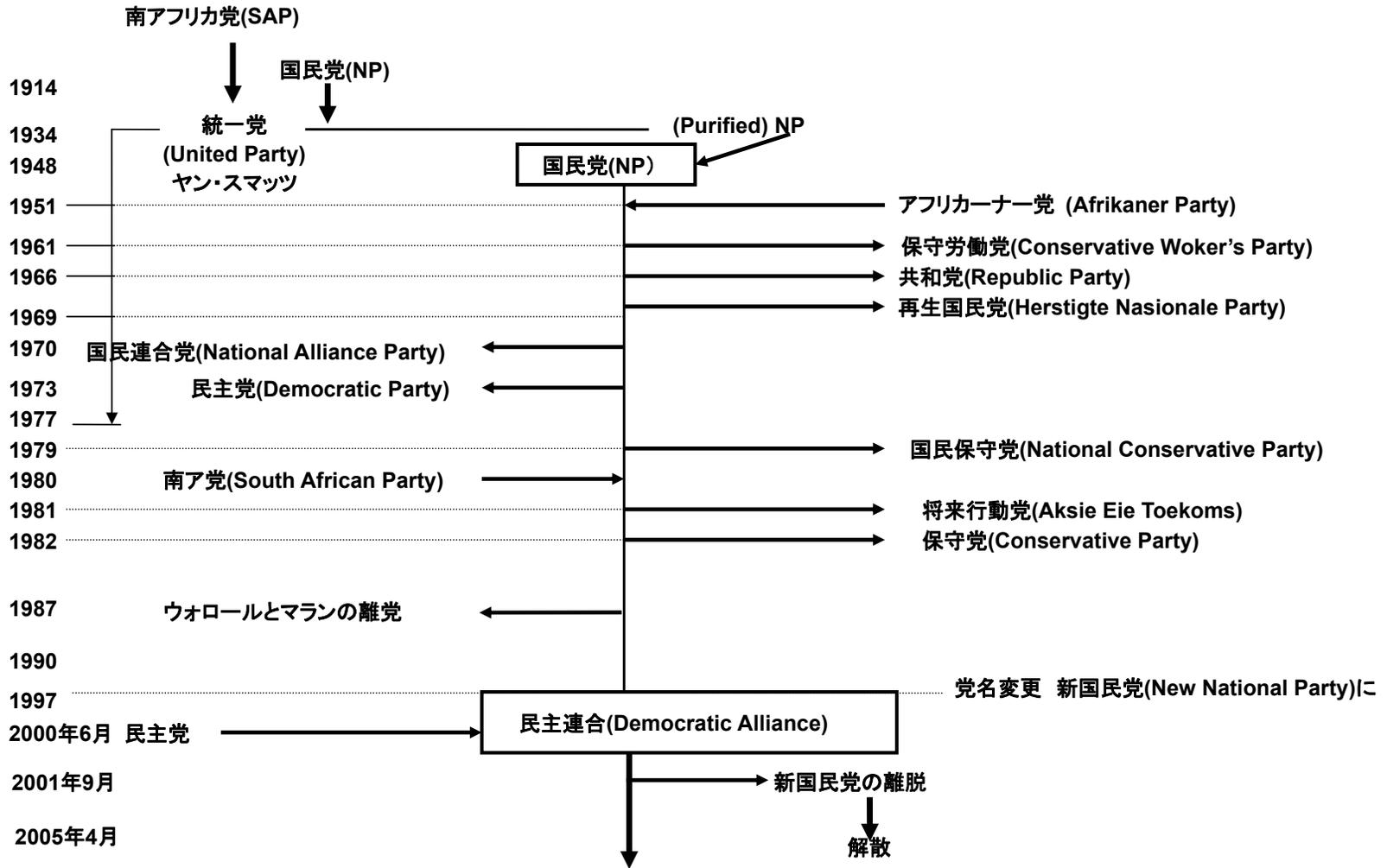
(出所) Piombo [2004: 456]。オリジナルは政府統計局資料。

表 4 南アにおける人種別自己アイデンティティ (%)

	アフリカ人 N=1665	白人 N=301	カラード N=179	インド系人 N=55
エスニック ・カテゴリー	37.2	9.2	0.5	65.5
人種	18.4	15.1	46.7	0.9
宗教	18.2	11.2	28.8	16.2
階級	4.9	48.6	17	6
職業	3.6	4.6	1.7	11.4

(出所) Piombo [2004: 456]。オリジナルは IDASA 調査。

図1 国民党の系統図



出典： Kotze [2001:119]より一部加筆し、筆者作成